

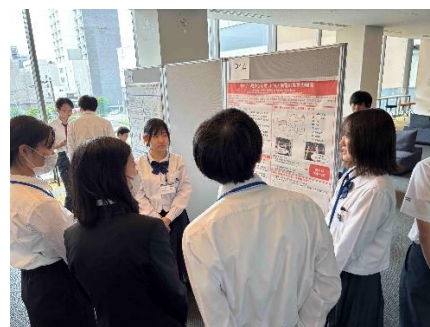


第71回日本生化学会近畿支部例会でポスター発表！

5月24日（土）、和歌山県立医科大学伏虎キャンパス（薬学部）にて「第71回日本生化学会近畿支部例会」が開催されました。環境科学科3年生の三島有央さん、岸本彩乃さんが参加し、参加した学生や大学院生、研究者の方々に向けて高校生ポスター発表（タイトル：カエデの種子を応用した風力発電の風車の開発）を行いました。以下、生徒の感想です。

岸本さん「大学生の方や教授が発表を聞いてくださったので、今まで気づかなかった視点に気づくことができました。遠くから来ている高校生の方とも交流できて良かったです。」

三島さん「近畿の各地から集まった大学の先生や大学生の方々からたくさんのアドバイスを頂くことが出来ました。一般演題発表は先進的な生化学の研究に触れることができる貴重な機会でした。」



※環境科学科3年生のカエデ班は全国SSH生徒科学研究発表会（8月・神戸国際展示場）で発表予定です！



CLIMATE×AI キャンプに参加！

5月24日（土）、和歌山県田辺市の秋津野ガルデンにて「AIと共に考える地球の未来 CLIMATE×AI キャンプ」が開催されました。「CLIMATE×AI キャンプ」では、地元の高校生を対象に、気候変動について学び、AIを活用した課題解決アプローチをワークショップで体感します。和歌山ならではの植樹活動を通じて、気候変動対策を体験的に学ぶイベントです。環境科学科2年生の中村天音さん、福田純伶さんが参加し、他校の高校生と交流を図りました。以下、生徒の感想です。



福田さん「参加者の人数がスタッフの方々よりも少ないのもあって、困っている時は手厚くサポートしてくださって、本当にありがたかったです。また、AIを沢山使って研究したり、植樹を体験したりすることは初めてだったので、貴重な経験をさせていただきました。他にも他校の生徒の方との交流もあって充実した時間になりました。とても楽しかったです！」

中村さん「まず、梅を気候変動から守るという題でAIを使いながら、設定した課題に対する解決策や詳細をあげてもらい、対策を考えるという形で進めました。考えたことを発表した際、この機会に地域の盛んな産業物である梅のことについてよく知れたということと、課題設定から具体的な対策を考えるまで短い時間しかなかったにもかかわらず、仕上げ切ることができたことが良かったと思います。」